

女性自衛官からアグリビジネスに転身
直売所へ野菜を出荷し

地域活性化に取り組む若者夫婦
農業の魅力と2人が目指すものとは…
自然を相手に野菜を育てる楽しみと喜び
さあ、あなたも野菜出荷で直売所を盛り上げよう！



農

に 飛込む

若者が挑戦したアグリビジネス

近年、直売所ブームが巻き起る中で、朝採りの地場野菜を求めて多くの人が直売所を訪れている。直売所で販売されている野菜などは、バーコードに「いつ、だれが、どこで」作ったものか分かりやすく表示され、自分好みの生

産者に出会える楽しさ魅力のひとつだ。

一方、価格についてもスーパーなどよりも低価格で販売されている商品もあり、野菜価格が高騰している現在、直売所の生産者が設定する価格も好評だ。しかしながら、直売所出荷者の高齢化や後継者不足が深刻化しており、出荷量も年々減少傾向にあるのも事実だ。そのような中で農業未経験の若者が就農し、直売所出荷に汗を流している。

近年、メディアなどから幅広く注目を集める「農業女子」。私たちが暮らす、この弘前市においても今どきの女性が夢を持って毎日のように畑へ向かっている。今回は、高校時代に農業の楽しさを学び、農業の世界に飛び込んだ若手女性就農者に迫りたいと思う。皆さんと「農業」というアグリビジネスの楽しさを共有し、一人でも多くの人が「農業」に魅力を感じて頂けたら幸いです。

それでは、早速「るなファーム」の世界へ飛び込んでみよう。



夢を追いかけて

夢。それは自然溢れるこの大地で農業という最高の輝きを柱に地域活性化を図ること。そう話すのは、元女性自衛官で昨年の春に新

規就農を果たした三上瑠菜さんだ。旦那の勇人さんは現役の陸上自衛官で勇敢な若者だ。休日のほとんどを妻の瑠菜さん



三上さん夫婦が作る色とりどりの野菜が私たちを幸せにしてくれる



直売所出荷で一躍を担う今どきの**農業女子**!

と農業に没頭している。

結婚を機に就農した瑠菜さんは、美味しい野菜づくりを目指して「るなファーム」を設立。高品質な野菜づくりで農業女子として地元を盛り上げることに一躍を担っている。しかしながら、都会でアグレッシブに働く若者とは真逆の道へ走る理由はどこにあるのだろうか。そんな思いを胸に、農業という道を歩み始めた理由を聞くことにした。

瑠菜さんは、高校時代に青森県立弘前実業高等学校農業経営科で3年間農業の基礎を学び、農業の楽しさを存分に味わった一人だ。そして、いつしか大自然の中で農業をしてみたいと思うようになったと教えてくれた。そして、就農した理由は農業の楽しさを満喫したいという思い以外に、もうひとつあるようだ。それは、母の長年の夢である民宿の経営だ。美味しい野菜をつくり、いつか母の夢を実現させて一人でも多くの人に「るなファーム」の野菜を提供したいと瑠菜さんは話す。現在は直売所を中心に出荷しているものの、将来は民宿を立ち上げ、直売

所出荷を継続しながら地産地消に取組みたいと胸の内を明かしてくれた。一人でも多くの人に自身が作った野菜を提供したいという思いが伝わってきたのは言うまでもないが。

なにより今は、夢に向かって農業一筋で生活していけるように頑張り、様々な知識を身に付けて高品質な野菜づくりに専念したいと教えてくれた。また、夢を追いかけるとともに、子どもから大人まで幅広い年齢層に収穫体験や料理教室を開催し、地域活性化を図ることにも力を入れたと意気込んだ。

強い決心と夫婦愛

前段でも話した通り、瑠菜さんは高校時代に農業の楽しさを学び現在に至る。一方、スポーツ万能な勇人さんは、農業を始めた当初、



愛車はFJクルーザー

農業の魅力を理解できず、嫌いだったと振り返る。そんな気持ちをよそに、瑠菜さんは勇人さんが長期の出張中に就農を決意し、勇人さんが半年近い出張から帰ってくる、「るなファーム」が目の前に広がっていた。オクラやキュウリ、ナスなど夏野菜を作って農業に没頭していた瑠菜さんがそこにいたと当時を振り返る。「きつと勇人なら付いてきてくれると信じていた」と、姉さん女房の瑠菜さんは笑顔を見せた。

農業経営をしていく自信が全く感じられなかった勇人さんだが、いつしかその心は一変していたようだ。そのきっかけとなったのは、自分たちが一生懸命に作った野菜が消費者に売れた瞬間だった。出荷するまでは、自分たちの野菜がいくらで売れるのか楽しみでならなかったという。価格だけではなく、消費者に評価してもらえると喜び、消費者に向けて高品質生産に取り組む熱意で溢れかえった厚みが今でも深く心に残っているそうだ。収穫する喜びや、野菜がプライスとして提示されることのドキドキ感がたまらないと話す。多くの人



ご主人の三上勇人さん(26)

に支えられながら今日も二人は農業の道を歩む。

日常の変化

就農以来、生活スタイルが180度変わり、女性自衛官として国を守ることから農地を守る立場へと変わった瑠菜さん。瑠菜さんの一日は、朝採りの新鮮野菜を直



夫婦仲良く協力しながら出荷作業に汗を流す

売所へ出荷することから始まる。繁忙期は勇人さんも朝早くからトラクターに乗り込み、肥料を蒔いたり耕して畑を手伝い、農業の楽しさを実感しながら充実した日々を送っている。

就農1年目は、土づくりや病害虫防除などの知識を深めることの大切さを実感。安心安全な農産物の育成は、いつの日も変わらぬ農業の重要な部分である。やはり、高品質生産を胸に苦勞して作る野菜は収穫時期が非常に楽しみで、収穫時に会っ自分たちが作った野菜は格別なようだ。収穫時の喜び、そして、消費者が喜んでくれたときの笑顔が私たち生産者を

もつとやる気になってくれると話す。心の底から湧き上がる喜びは、作った本人にしか味わうことができないのも農業の魅力であろう。農業は頑張れば頑張るほどやりがいも多く実感でき、それも農業の楽しさのひとつであると語ってくれた。また、もつとたくさんの若者に農業という最高の輝きを共感してもらい、一緒に挑戦する仲間を増やしていきたいとも話してくれた。

JAの重要さを感じる

高品質生産に向けて病害虫防除、「こだわり」栽培など消費者に喜んで買ってもらえるためにはどんな政策が必要なのか日々奮闘中とのこと。就農当時は、主に市場への出荷から始めたものの、現実には予想以上に厳しかったという。市場においては様々な旬の野菜が求



瑠菜さんが作るズッシリとした白菜。味や見た目への「こだわり」が光る。



農と皆は農の喜びが、皆の魅力を「美味しい」を届けたい。私たちに「美味しい」を届けたい。

められる中で、産地市場価格の変動により良品質であつても安定した単価が取れなかつたこともあつたよつだ。高く売れたときは問題ないが、価格の暴落によりせつかく一生涯に作つた野菜が単価に反映されないことにショックを覚えた二人。地域貢献と安定を求めらる中で、農産物を売るだけの市場にはないJAの良さを実感する日を訪れる。JAでは営農指導や農家を最大限にサポートしてくれることから、JAが必要不可欠な存在であることを話してくれた。私たちJAにとっては非常に心温まる言葉だ。JAのサポートで高品質生産を可能にし、その収穫した

野菜を自身が値段を決めて直売所に出荷できる素晴らしさは格別であると語ってくれた。また、美味しい野菜作りに向けて、土づくりから病害虫防除まで勉強する楽しみが自身の最近のブームだという。価格だけにとらわれず、消費者に直接評価される喜びと地産地消を胸に直売所に貢献したいという強い思いが感じられた。一人は、信頼できるJAの存在を力に、夢に向かって走り続ける。

こだわりと美しさ

直売所「林檎の森」で販売される数多くの地場野菜。その中でも見た目が良く、綺麗に陳列されて



商品を陳列棚へ綺麗に並べる瑠奈さん

いるものは消費者からの注目度が高い。現在、瑠菜さんが出荷している甘味のあるズッシリとした白菜もそのひとつだ。また、瑠菜さんは栽培のこだわりだけではなく、消費者が求める視点を基に梱包作業にも力を入れている。瑠菜さんの出荷した農産物は、梱包も非常に綺麗で美味しさを見て実感でき

直売所「林檎の森」出荷者 三上瑠菜さん (28)

るほどだ。その見た目は、農産物の大きさに合った梱包資材で一つ一つ丁寧に包まれ、バックシールテープで美しく口留めされている。皆さんも是非一度、瑠菜さんの鮮度溢れる美味しい野菜を購入してみたいかがだろうか。今後は加工品や特徴のある野菜作りにも挑戦し、自分色を出していきたいとも抱負を語ってくれた。



近年、国をはじめとするJAなどの関係機関が新規就農者に対してサポートを充実させている。補助金は基より、営農指導などを積極的に進めていることから新規就農者も増加傾向にあると言っても過言ではない。当JA管内においても、若手生産者が元気いっぱい輝いているのが現実だ。JAという力強い支えを頼りに、一人でも多くの人が農業の道を歩むことを期待し、新規就農者をピックアップしていきたいところだ。今後とも、より一層信頼されるサポートで農家を応援していく次第です。農業の未来は、彼らに懸かっているのだから。